

# 平成 30 年度 北海道遠軽高等学校の ESD 実践事例

北海道遠軽高等学校  
校長 渋川 誠人  
担当 名越 美英

## 1 本校の ESD（持続発展教育）活動の趣旨

本校では、ユネスコスクールの 4 つの基本分野（[1]地球規模の問題に対する国連システムの理解、[2]人権・民主主義の理解と促進、[3]異文化理解、[4]環境教育）を踏まえて、生徒の学力向上に重きを置く教育課程の編成、実施を行っている。また、個の尊重、豊かな人間形成、心のふれあいを大切に特別活動を推進し、生徒の主体性、創造性の育成に努めている。

学校教育目標についても、「21 世紀をたくましく生きる人を育む」ことを目指し、自己の人生を切り拓くことのできる生徒、他社との協働により課題に対応できる生徒、郷土・地域への理解と奉仕の心を兼ね備えた生徒の育成を目指している。

※教務部内に「ユネスコスクール担当」を設け、校内外での実践の取りまとめや庶務、活動生徒への指導を担当している。

## 2 ESD 活動の計画

次年度も、主に次のような活動を通して主体性・自律性・人を思いやる姿勢を育む。

- 異校種連携事業（地域の小・中・高・大）
- 時事問題研究（総合的な学習の時間）
- 学校設定科目「オホーツク風土研究」の開講
- リサイクル活動（ペットボトルキャップ）
- 防犯協力ボランティア
- 交通安全運動への参加
- 社会福祉協議会との連携（福祉イベント運営、街頭募金活動）
- インターンシップ（町コスモス園の環境整備）
- 障がい者入所施設訪問・イベント運営補助
- ロータリークラブとの連携（インターアクト大会・短期海外研修）
- 主権者教育講座
- 人権擁護講座
- 短期留学生受け入れ
- 湧別町相互交流事業カナダ派遣
- 地域の各施設・諸団体の式典・イベント運営の補助

## 3 ESD 活動の事例（平成 29～30 年度）

### ① 環境のための取組

自主的な清掃点検（委員会活動）

地域清掃に参加（部活動）

ペットボトルキャップ回収（ボランティア部）

### ② 異文化理解と多文化共生のための取組

北方先住民族についての学習（オホーツク風土研究）

短期留学生の受け入れ

湧別町相互交流事業カナダ派遣に代表生徒参加

インターアクト短期海外研修に代表生徒参加

### ③福祉のための取組

児童館への訪問と学童との交流  
認定こども園の行事の運営補助  
養護学校の生徒との交流、行事の運営補助  
障害者施設の行事運営補助  
赤い羽根共同募金運動の街頭募金

### ④平和学習および人権・民主主義の理解

時事問題に関する調べ学習と発表活動  
見学旅行（広島）での平和学習  
主権者教育講座（選挙管理委員会からの講師による講義）  
人権擁護講座（北見法務局人権擁護委員による講義）  
道警高校生防犯ボランティア活動（犯罪防止ポスター制作、街頭啓発活動）

### ⑤郷土の自然や文化を大切にする取組

ふるさと学講演（地元の講師による地域の風土・歴史についての講演）  
コスモス園除草ボランティア（町コスモス園にて1年次全生徒が取り組む）  
コスモス園ボランティアガイド（コスモス園での観光ガイド補助）  
湧別原野オホーツククロスカントリー大会運営補助  
学校設定科目「オホーツク風土研究」の実施（教科横断的な地域学習）  
遠軽神社例大祭手伝い（弓道部の奉納射）  
ベースボールフェスティバル参加（子どもたちへの指導手伝い 野球部）  
小学生への学習支援とスポーツ交流（ラグビー部）  
地域の各スポーツ少年団との交流（体育系部活動）  
地域イベントでのお茶会運営（茶道部）  
記念式典・地域イベントの演奏（吹奏楽局）



## 4 成果と課題

ボランティア活動・国際交流・福祉などに対する生徒の意欲・関心は年々高くなっており、地域の需要も見込まれる。自主的・自律的な生活の礎となる「学力」の向上とともに、郷土への理解を促し、他者への思いやりの心を育てる「持続可能な」教育活動を展開していきたい。